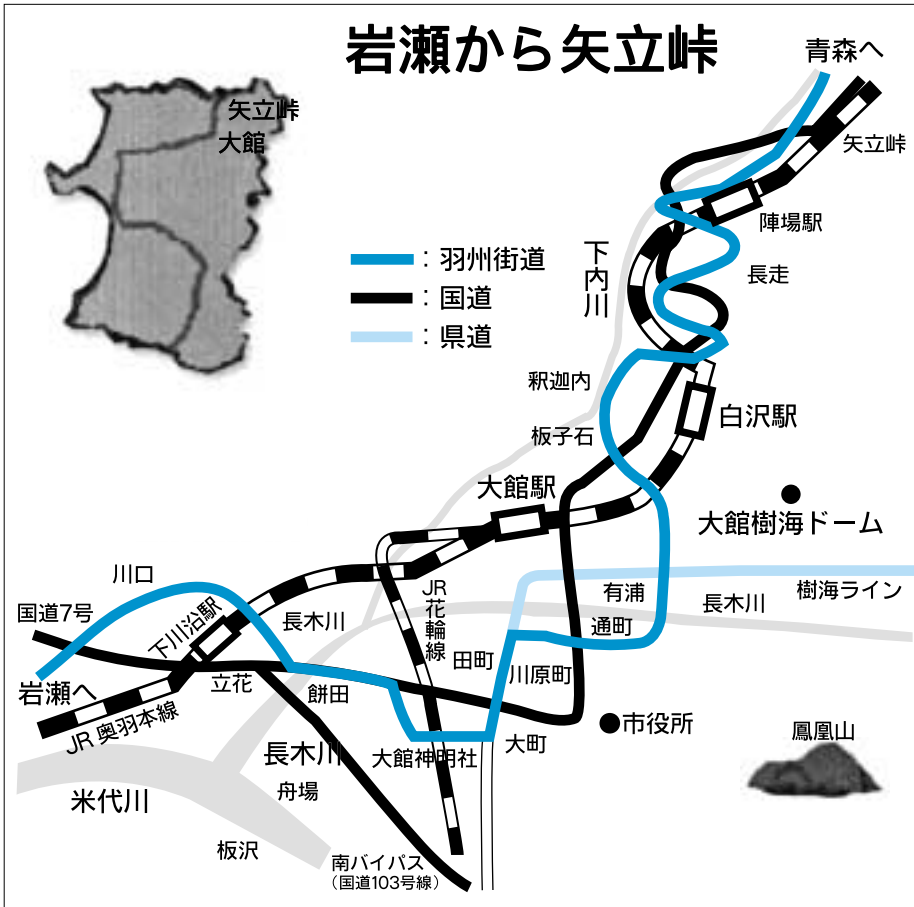


岩瀬から矢立峠



明社を後にした街道は、常盤木町を東進し、新町交差点から北に向きを変え、鍛冶職人が居住した鍛冶町、商業の中心地の大町、馬喰町へと続きます。大町は、1675年の火災後、酒屋、茶、紙、木綿商売の商人を住まわせ、以来、にぎわいをみせていました。坂を下り、田町の愛宕神社入り口を過ぎて東に折れ、川原町、独結町、通

町を東進し、長木川に出ます。水神社と鉄砲場
通町の「水神社」は、昔からこの周辺一帯が水害に見舞われたため、洪水から町を守るために祭られていたと伝えられています。また、鉄砲場は、足軽鉄砲隊の練習場があったことからついた地名です。

町を東進し、長木川に出ます。

有浦・釈迦内

長木川を越えた街道は、有浦の住宅街へ入り、北上します。この一帯は当時低湿原帯で、水害に悩まされていました。そのため、非常に道路事情が悪かったようです。小坂町へ向かう樹海ラインや代野道を横切り、羽州街道はやや北西に向きを変え、JR奥羽本線、国道7号をまたいで、板子石に入ります。釈迦内神明社前を過ぎ、実相寺に至ります。さらに、釈迦内小学校を左に見て二ツ森に向かうと、街道は下内川に近づきます。この先の萩長森のふもとあたりは、昔の書き付けによれば、悪路が続くひどいところだったそうです。

実相寺釈迦堂

実相寺の釈迦堂には、鎌倉時代中期の幕府執権・北上時頼が、愛妾唐糸の供養のために納めたとされる釈迦像が安置されています。釈迦内の地名の由来はこの釈迦堂によるといわれ、乱川や板子石の名もこの唐系伝説によるといわれています。

橋桁・矢立峠

橋桁から下内川を渡るとまもなく白沢。さらに進んで、対岸の寺ノ沢へ。長走の長い街道を行き、陣場を過ぎれば街道最大の難所

矢立峠の山道です。この陣場矢立峠間約4kmに、下内川を20回も渡らなければならなかったとも伝えられます。矢立峠が東北有数の難所と伝えられるのは、この川の中を何度となく渡り、川から峠へと登っていくことにあります。とても困難を極めた街道はこうして青森県へと下っていきます。

矢立峠

1821年、この峠(一説によれば橋桁岩坂)で南部藩士相馬大作による津軽藩主狙撃未遂事件が発生。講談などで、矢立峠の名が広く知られるようになります。幕末には、吉田松陰が、明治には明治天皇や英国人女性旅行家イサベラ・バードもこの峠を越えています。

いにしへの文化が眠る道

羽州街道を駆け足で紹介しましたが、自動車ではあつという間に通り過ぎる場所や、舗装された道の下には、いにしへの文化が眠っています。ゆっくりと散歩しながら、時代時代を生きた人々に思いを巡らせれば、今を生きる私たちへ道が歴史を語ってくれます。これをきっかけに、機会を作って歴史散歩を試みてはいかがでしょうか。